

令和元年6月28日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11835

研究課題名(和文) 女性アルコール依存症患者のレジリエンス促進支援モデル開発

研究課題名(英文) Developing a support model to promote resilience among female patients with alcohol dependency

研究代表者

山下 亜矢子 (YAMASHITA, AYAKO)

新見公立大学・健康科学部・准教授(移行)

研究者番号：90614363

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：女性のアルコール依存症患者のレジリエンス促進支援モデルの開発を試みた。患者を対象とした質問紙調査、面接調査および保健福祉医療スタッフを対象とした面接調査等を実施し、依存からの回復に必要なレジリエンス促進要因を明らかにした。レジリエンス促進に対する支援として、自己開示の深化、安心感が得られる場の設定、素面で過ごす際の快の体感、セルフモニタリングの深化、ロールモデルとの出会い、トラウマケア、保健福祉医療スタッフの治療的コミュニケーションスキル向上等が示された。本調査結果を統合し、ケアモデルを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究にて、アルコール依存症患者のリハビリに寄与するレジリエンス促進要因について、体験者とアルコール依存症医療に従事するスタッフより、リッチなデータを得ることができた。また、データを基に、女性アルコール依存症患者の回復支援に資するレジリエンス促進支援モデルを開発した。モデルの実用化の手段として、若年層の女性を対象とした教育資料を作成した。本モデルは、アルコール使用障害を有する者や家族等に対して貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：We aimed to develop a support model to promote resilience among female patients with alcohol dependency. After conducting questionnaire and interview surveys targeting the patients and an interview survey targeting staff members involved in health and welfare medical care, we identified factors required for patients to promote resilience in their recovery from addiction. The following factors were identified as those offering support for resilience promotion: deepening self-disclosure, establishment of settings that offer peace, the physical sense of contentment of being sober, deepening the self-monitoring, meeting role models, trauma care, and increasing therapeutic communication skills with health and welfare medical care staff members. Results from the survey were integrated to create a care model.

研究分野：精神看護

キーワード：アルコール使用障害 アルコール依存 女性 リハビリ レジリエンス ピアサポート 自己開示

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国における女性のアルコール依存症患者の現状

アルコールの有害使用は、生物学的・社会的・心理的側面のすべてにダメージを与えることから、世界の健康障害の最大のリスク要因の1つである(WHO、2004)。2010年、世界保健機関総会において、「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」が採択され、アルコールの有害な使用を減少させるための世界的な取り組みが示された。日本では、2014年にアルコール健康障害対策基本法が施行された。本法は、アルコール健康障害に対する国や地方公共団体等の責務を定め、アルコール対策の基本理念が示されている。

我が国において、アルコール依存症患者推計数に対し、治療中の患者数が少数であることが指摘されている。また、近年、アルコールの有害な使用の高リスク者である30歳代を中心とした若年層の女性アルコール依存症が増加している報告がある。若年層の女性に対するアルコール関連問題対策として、妊娠や出産等を考慮した対策が重要となる。

(2) 女性のアルコール依存症患者に対する回復支援

アルコール依存症からの回復は、単に疾病からの回復だけではなく、人生の回復を考えるリカバリーという視点が重要となる。アルコール依存の治療において、アルコールによる害を低減する目的にて、ハームリダクションの観点においても治療が行われている。女性アルコール依存症患者の回復支援において、回復プログラムに参加する女性患者が少数であることへの配慮や配偶者やパートナー等に対する相談体制の整備、精神疾患の併存に対する管理体制の充実、自助グループの継続的な参加、ライフイベントを考慮したケア等が必要となることが報告されている。

女性においてアルコール依存症からの回復のためには、ライフイベントや生物学的特徴を考慮しつつ、ストレングスモデルや患者に内在するレジリエンスを促進する回復支援が必要となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、女性のアルコール依存症患者のレジリエンス促進支援モデルを開発することである。女性アルコール依存症患者の回復支援システム構築に向け、アルコール依存症患者のリカバリーに資するレジリエンス促進要因を解明し、性差を検討する。次に、女性アルコール患者のレジリエンス促進要素を基に、レジリエンス促進支援モデルを開発する。

3. 研究の方法

本研究は、下記の内容より構成される。

(1) アルコール依存症患者のリカバリーに寄与するレジリエンス促進要因の解明

本調査は、アルコール依存症患者のレジリエンス促進に関連する要因について、量的および質的研究デザインを用い、分析を行い、明らかにした。調査方法の詳細については、以下のとに示す。

アルコール依存症患者のレジリエンスと自己開示および再飲酒リスクの関連

本調査の目的は、アルコール依存症患者のレジリエンスと自己開示および再飲酒リスクの関連を明らかにすることである。自助グループに参加するアルコール依存症患者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査票は郵送法にて回収した。調査項目は、基本属性(年齢、性別、キーパーソン・同居者の有無、就労の有無、アルコール依存症診断年齢、治療期間、断酒期間、自助グループ参加期間・参加回数、精神疾患の併存の有無、身体疾患の有無)、レジリエンス測定尺度(個人要因に関する資質的レジリエンス要因と環境因子に関する獲得的レジリエンス要因から構成)、自己開示測定尺度、再飲酒リスク評価尺度を設定した。

分析方法は、資質的・獲得的レジリエンスの中央値を算出し、高群と低群の2群に分け、比較分析を行い、統計学的手法を用い検討した。

アルコール依存症患者の主観的リカバリー体験の様相

レジリエンスの主観的評価として、アルコール依存症からの回復体験を問う内容を調査票に設定した。対象者の主観的な体験を具体的に記述することを目指すため、質的記述的手法を用いデータを分析した。

(2) 女性アルコール依存症患者のリカバリーに寄与するレジリエンス促進要因の解明

本調査の目的は、女性アルコール依存症患者のリカバリーストーリーより、レジリエンス促進要因を明らかにすることである。自助グループに参加する女性アルコール依存症患者を対象に、フォーカスグループインタビューを実施した。インタビュー内容は、アルコール依存症からの回復に関する体験について語りを得た。逐語録をデータとし、質的記述的方法を用い、分析した。

(3) アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要な支援方法

本調査の目的は、アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要な支援方法を明らかにすることである。実践知を有する保健医療福祉スタッフと自助グループに所属する体験者に対し、インタビューを行った。分析結果を基に、女性のアルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要な支援方法について検討した。調査方法の詳細については、以下のとに示す。

アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する保健医療福祉スタッフの実践知の特徴

本調査の目的は、アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する保健医療福祉スタッフの実践知の特徴を明らかにすることである。依存症治療機関に5年以上の勤務経験があり、実践知を有する保健医療福祉スタッフを対象に、半構成的面接を行った。逐語録をデータとし、質的記述的方法を用い、分析した。

女性アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要となる支援方法

本調査の目的は、女性アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要となる支援方法について、体験者の語りより明らかにすることである。自助グループに所属する体験者を対象に半構成的面接を行った。逐語録をデータとし、質的記述的方法を用い、分析した。

(4) レジリエンス促進支援モデルの実用化の手段と評価

(1)から(3)の調査にて明らかとなったアルコール依存症患者のレジリエンス促進要因を統合したレジリエンス促進支援モデルを開発した。レジリエンス促進支援モデルの実用化の手段として、教育資料を作成した。教育資料作成の際は、まず、素案を作成した。次に依存症治療機関にて勤務する看護師、精神看護を専門とする大学教員等に対し、素案の評価、実用化の手段等についてヒアリングを実施した。

(5) 倫理的配慮

研究対象者に対し、研究の趣旨を説明し、研究の任意性と撤回の自由、プライバシーの保護を保障した。また、データは、分析や結果公表の際に個人が特定されないように処理し、研究者以外の閲覧や研究目的以外の使用は行わないこととした。なお、本研究は、研究者の所属する機関の研究倫理審査委員会の承認を得た後、研究を開始した。

4. 研究成果

(1) アルコール依存症患者のリカバリーに寄与するレジリエンス促進要因の解明

アルコール依存症患者のレジリエンスと自己開示および再飲酒リスクの関連

本調査は、自助グループに参加するアルコール依存症患者48名(有効回答率35.6%)を分析対象とした。対象の属性は、男性47名、女性1名、平均年齢60.1歳、平均診断年齢45.4歳であった。データ分析の結果、資質的レジリエンスと獲得的レジリエンスは互いに高めあう関係にあり、資質的レジリエンスが高いものは、相談相手が有意に存在する傾向を示した。レジリエンスが高いものは、再飲酒リスクが低下し、自己開示の深化が明らかとなった。

本調査結果より、アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する有効な手段として、自助グループ参加や安心できる対人関係構築、自己開示の深化を可能とする安全かつ安心な環境が必要であることが示唆された。

アルコール依存症患者の主観的リカバリー体験の様相

主観的リカバリー体験について調査票への記載があった者は36名であった。分析対象の属性は、男性34名、女性2名、平均年齢61.4歳、平均診断年齢44.5歳であった。データ分析の結果、自助グループに所属するアルコール依存症患者のリカバリー体験の内容として、ポジティブな感覚、ソーシャルスキルの向上、セルフモニタリングの深化、主体的な治療参画、素面を過ごせる実感、リカバリー体験の共有、家族の精神的健康の改善等が明らかとなった。

アルコール依存症患者のレジリエンス促進に向けた対処技術の獲得として、飲酒時以外に快の感覚を体感する支援が必要となることが示唆された。また、アルコール依存症患者は自助グループ参加により、リカバリー体験を共有している状況が明らかとなった。また、リカバリー体験の共有は、回復のロールモデルを見出す一助となることが示唆された。

(2) 女性アルコール依存症患者のリカバリーに寄与するレジリエンス促進要因の解明

自助グループに参加する女性のアルコール依存症患者10名より調査協力を得た。自助グループに参加する女性アルコール依存症患者を対象に、フォーカスグループインタビューを90分間実施した。対象者の平均年齢は64.7歳、平均診断年齢は50.6歳、平均断酒期間は147.9か月、治療状況は通院治療中7名、入院治療中1名、自助グループのみの参加は2名であった。データ分析の結果、女性のアルコール依存症患者の病の体験として、家族関係の悪化、子育て時の孤独、トラウマ体験との対峙、職場の管理的介入による不快感、自助グループ参加による自己の存在の容認、ロールモデルとの出会い、主体的な幸福追求への思考転換等が明らかとなった。

本調査結果より、女性アルコール依存症患者は、飲酒の契機として、孤独の中での飲酒、トラウマ体験等に直面していた状況が明らかとなった。女性アルコール依存症患者の回復支援に、過去のトラウマ体験に対するケア、ロールモデルとの出会い、自己承認等が必要となることが示唆された。

(3) アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要となる支援方法

アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する保健医療福祉スタッフの実践知の特徴

本調査の対象は、男性4名、女性2名の合計6名であった。職種は、看護職4名、心理職1名、精神保健福祉士1名であった。平均年齢47.0歳、精神科医療平均経験年数22.7年、アルコール依存症医療平均経験年数9.0年であった。面接は対象者1名に1回実施し、平均面接時間は34.2分であった。

アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する保健医療福祉スタッフの実践知の特徴として、23 サブカテゴリ（以下《 》）が抽出され、5 カテゴリ（以下【 】）に集約された。【治療的コミュニケーションスキルを用いる】は、《意思を尊重する》《タイミングを待つ》《心理的距離を測る》《対話を繰り返す》の4 サブカテゴリにて構成された。【対象の体験理解を深める】は、《治療の契機を理解する》《依存形成に伴う苦悩を察する》《家族背景を理解する》の3 サブカテゴリにて構成された。【治療者である自己の内面に生じる感情に対処する】は、《自己の感情を客観的に評価する》《葛藤や混乱をチームで検討する》《対象の回復を信じる》の3 サブカテゴリにて構成された。【対象のアルコール関連問題を共同作業により解決を試みる】は、《依存症に関する情報提供を行う》《対象の侵襲性を考慮しつつアルコール関連問題を明確化する》《対象に応じた節酒や断酒方法を提案する》《ストレス対処方法を共に考える》《再燃時の対処方法を検討する》《過去の回復モデルを参考としたアプローチ方法を検討する》の6 サブカテゴリにて構成された。【治療継続に向け治療環境を整える】は、《多職種連携を行う》《家族関係を調整する》《地域のサポートシステムを活用する》《治療関係を評価する》《自己実現に向けた生活の場を設定する》《対象が対話できる場を設ける》《退院後のモニタリングを行う》の7 サブカテゴリにて構成された。

アルコール依存症患者のレジリエンスを促進する保健医療福祉スタッフの実践知の特徴として、治療的コミュニケーションを専門スキルとして用い、パートナーシップを形成し、治療関係の構築を行い、リハビリを支援していることが明らかとなった。アルコール依存症患者のレジリエンス促進に向けた介入方法として、アルコール依存症患者の回復に携わるスタッフの治療的コミュニケーションスキルの向上の必要性等が示唆された。

女性アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要となる支援方法

本調査は、自助グループに所属する体験者5名より協力を得た。対象者の性別は、男性2名、女性3名である。女性アルコール依存症患者のレジリエンス促進に必要となる支援方法として、安心して語れる場の確保、医療機関によるタイムリーな相談対応、家族関係の再統合等が明らかとなった。

(4) レジリエンス促進支援モデルの実用化の手段と評価

(1)から(3)の調査より明らかとなった、レジリエンス促進要因を統合し、レジリエンス促進支援モデルを開発した。

開発したモデルの実用化の手段として、研究結果より明らかとなったレジリエンス促進要因や先行研究等を基に、若年層の女性アルコール依存症患者をターゲットにした教育資料を開発した。教育資料作成時は、依存症治療機関にて勤務する看護職2名、精神看護を専門とする大学教員1名より意見を得た。教育資料の内容は、アルコール使用障害を有する30歳代女性の日常をストーリーとして描き、アルコール使用障害に関する基礎知識の獲得、セルフモニタリングの促進やクライシスプラン等が行えるように作成した。また、早期に相談機関につながることを目指し、相談機関に関する情報を記載した。完成した教育資料は、依存症治療機関、精神保健福祉センター、保健所および市町村、一般病棟等へ配布し、使用を依頼した。配布後、配布対象に対し、教育資料の内容についてヒアリングを行い、モデルの実用化について検討した。

今回作成した教育資料は、セルフモニタリングや対処方法獲得のツールとなり、女性アルコール依存症患者に対するレジリエンス促進の可能性を高めることが示唆された。また、本モデルは女性のアルコール依存症患者のみでなく、アルコール使用障害を有する者や家族等に対して、活用可能であることが示唆された。

今後の課題として、本モデルの有効性の検証が望まれる。また、トラウマケア等を考慮したモデルへの発展を検討していく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

山下 亜矢子、吉岡 伸一、鈴木 千絵子、自助グループに所属するアルコール依存症者のリハビリ体験の様相、日本アルコール関連問題学会雑誌、査読有、20(2)巻、69-74、2019
Ayako Yamashita, Shin-ichi Yoshioka, Resilience Associated with Self-Disclosure and Relapse Risks in Patients with Alcohol Use Disorders, Yonago acta medica, 査読有、59(4)、279-287、2016
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC5214694/>

〔学会発表〕(計7件)

Ayako Yamashita, Recovery Support Based on Experiences of Illness among Female Patients with Alcohol Use Disorder, The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions : Innovations in Practice, Education, and Research, 2019

山下 亜矢子、中嶋 貴子、アルコール依存症患者のレジリエンス促進に関する熟練スタッフの実践知の特徴、第38回日本看護科学学会学術集会、2018

Ayako Yamashita, Shin-ichi Yoshioka : The Relationship Between Resilience and Social Aspects of Patients with Alcohol Use Disorder : A Cross Sectional Study, 19th

Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism, 2018
山下 亜矢子、吉岡 伸一、鈴木 千絵子、自助グループに所属するアルコール依存症患者のリハビリ体験の様相、第 39 回日本アルコール関連問題学会、2017

Ayako Yamashita、The Recovery Process of Female Alcohol-Dependent Patients、TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017、2017

Ayako Yamashita、Yoshioka Shin-ich、Suzuki Chieko、Recovery Experienced by Patients with Drug Dependence、The 3rd International Society of Caring and Peace Conference、2017

Ayako Yamashita、Shin-ichi Yoshioka、Self Disclosure and Relapse Risks Associated with Promoting Resilience of Patients with Alcohol Use Disorders、17th International Mental Health Conference、2016

〔図書〕(計 1 件)

Ayako Yamashita、Shin-ichi Yoshioka、Relapse Risks in Patients with Alcohol Use Disorders、In: Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment 1st Edition、Victor R. Preedy(Eds.)、Academic Press、383-390、2019

〔その他〕

ホームページ等

<https://researchmap.jp/90614363/>